



発行所 大阪府農業会議 大阪市中央区農人橋2-1-33 JAバンク大阪信連事務センター3階 電話 直通 06(6941)2701~2 http://www.agri-osaka.or.jp 発行人 中谷 清

実態に即した政策提案活動で話し合いを通じた運動を推進

第158回通常総会

農業会議は6月17日、大阪市内・KKRホテル大阪で第158回通常総会を開催。令和5年度事業報告及び収支決算、12人の理事及び3人の監事の選任について承認した。

総会には来賓として大阪府環境農林水産部原田部長らが臨席。会員99人うち98人(書面表決者及び表決委任者含む)が出席した。



中谷会長は、引き続き地域の農地を守り、活かす取り組みに尽力いただきたいとあいさつ

中谷会長は冒頭のあいさつで、改正食料・農業・農村基本法が成立し、今後政府が具体的な施策の方向性を示す基本計画の策定に向けた検討を進めることに触れ、「農業者が将来に希望を持って農業に取り組めるよう、農業者が真に必要な施策の実現が不可欠」と言及。とりわけ、小規模な家族経営の農業者が多い大阪農業の実態に即した政策がなされるよう、引き続き提案活動に取り組んでい

年金の受け取りはJAで



主な記事

- ◎大阪府農業会議 役員紹介……………2面
- ◎中谷農業会議会長 再選インタビュー……………3面
- ◎第19回食育推進 全国大会出席……………8面

風速計

農地法が毎年改正される中で農地を守るための行政指導は、農地法適正執行上、重要な役割を果たしている

◆行政指導は、

指導を受ける側の理解と協力のもと成立するものである。ただ、許可権者が法的達成のために必要と考える、裁量権の行使として行う行政指導であれば一定の拘束力をもつ◆したがって、裁量権を逸脱しない範囲内において行われる行政指導は、農地法違反者に対して有効であり必要不可欠であると考える◆残念ながら近年、府内においても適切とは言えない農地転用案件が散見される◆厳格な行政指導を行うことは時として恣意的な判断により行ったものとされる場合が内在する可能性があるものの、食料・農業・農村基本法が改正された今だからこそ農地を守る者として農地法の目的・趣旨に鑑み踏み込んだ対応が求められるのではないのかと考える

くとした。また、市町村農林担当課と農委が地域計画策定に向けた話し合いを進めていることについて、「様々な意見があり、その集約は容易ではないが、引き続き実りある話し合いを行っていただきたい」とエールを送った。

さらに、府内では優良農地も含んだ大規模な農地転用案件が散見され、依然として農地の減少と遊休化に歯止めがかかっていないことを挙げ、「各市町村農委においては、市町村長に対する農業施策の意見提出や、地域の話し合いを通じて、地域の農地を守り、活かす取り組みに尽力いただきたい」と呼び掛けた。続いて、来賓として出席した原田環境農林水産部長があいさつ。「身近な農産物を手に入れることの大切さ、食を通じて健康な身体を維持することの重要性、脱炭素社会の実現が人類共通の課題」と強調し、「これらに關係する予算を確保したので、農業施策、関連施策に力を注い

でいきたい」と述べた。また、地域計画に向けた取り組みについては、「大切なのは『実行』。策定後となる来以降、農地の貸し借りに加え新規就農者の育成、農地の基盤整備などへ是非つなげていただきたい」と呼びかけた。

第53回臨時理事会を開催

役員、常設審議委員を選任

総会終了後、第53回臨時理事会を開催し、役員、常設審議委員の選任について承認。中谷会長、谷口副会長を再任し、新たに高槻市農業委員会の森本会長を副会長に選任した。

また、農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会開催について、10月24日(木)に大阪国際交流センターで開催する旨で決定した(3面に関連記事)。

(中島)

(増山)

一般社団法人大阪府農業会議 役員紹介(6月17日時点、敬称略)

6月17日に開催した第158回通常総会及び第53回臨時理事会において、農業会議の会長、副会長、専務理事、理事及び監事を次のとおり決定した(氏名の下は会員の選出母体等)。任期は8年度通常総会の終結まで。

〔代表理事 会長〕



中谷 清
富田林市農委会長・
学識経験
(常設審議委員)

〔副会長理事〕



谷口 敏信
岸和田市農委会長
府信連経営管理委員会副会長
(常設審議委員)



森本 茂
高槻市農委会長
(常設審議委員)

〔専務理事〕



北川 雅文
学識経験
(常設審議委員)

〔理事〕



辻 博美
豊中市農委会長



北島 政夫
泉大津市農委会長



大西 博
東大阪市農委会長



友田 正直
交野市農委会長



北尻 芳孝
堺市農委会長
(常設審議委員)



長内 繁樹
豊中市長
市長会生活環境部長

(注)
J A 大阪中央会
役員改選の都合
上、次月以降で
紹介予定。

府中央会推薦の
団体代表者
(常設審議委員)

〔監事〕



上西 武司
豊能町農委会長
(常設審議委員)



齊藤 暁
八尾市農委会長



青木 孝仁
学識経験
(常設審議委員)

※町村会からの推薦による理事
については、選挙の関係によ
り、次月号以降で紹介予定。



寝屋川市農委、全農新聞賞
高槻・富田林・堺市が優良農委
全国農業会議所は5月29日開
催の令和6年度全国農業委員会
会長大会において、情報提供活
動事業に関する表彰を行った。
第30回「農業委員会だより」
全国コンクール表彰では、昨年
に引き続き寝屋川市農委の「ね
やがわし農業委員会だより」が
全国農業新聞賞に選ばれた。
本コンクールは情報の提供・
公表活動に顕著な功績を有する
農業委員会を表彰し、それによ
り活動の更なる活性化と充実に
向け全国的な推進を促すことを
目的としたもので、今回は情報
の提供・公表活動としてふさわ
しいか、その編集内容、年間の
発行回数や部数、インターネッ
トの活用などの伝達手段の充実
等を重点に審査され、評価され
た。
また、令和5年全国農業新聞
表彰では、高槻市、富田林市、
堺市農委が全国農業新聞優秀農
業委員会・団体等表彰に選ばれ
た。3市は全国農業新聞の普及
において、府内上位3市。令和
5年度の年間月当たり平均部数
が80部以上であり、昨年からの
引き続きの表彰となった。

(中島)

中谷農業会議会長 再選インタビュー

大阪府農業会議会長、再任おめでとございます。

ありがとうございます。微力ですが、みなさんのご支援、ご協力をいただき、農業委員会組織の活性化のため、重責を果たして参る所存です。大阪の優良な農地を少しでも守る。このことが私の使命だと考えております。

—食料・農業・農村基本法が改正されましたね。

今後は、改正法の理念のもと、具体的な施策の方向性を示す食

料・農業・農村基本計画の策定に向けた検討が進められます。

かけがえのない農地を守り、農業者が将来に希望をもって農業に取り組み、食料の安定供給という国民の負託に応えるためにも、農業者が真に必要な施策の実現が不可欠です。

とりわけ、小規模な家族経営の多い、大阪農業の実態に即した政策が実現するよう引き続き政策提案活動の強化に取り組んでまいりますので、厳しい状況ですが、農業委員会委員のみな



さまのご協力をお願いします。—地域計画の策定に向けた動きも進みつつありますね。

地域の話し合いにおいては、様々な意見もあり、取りまとめ

にはご苦労をおかけしているかと存じます。

府内の状況に目を向けてみますと、優良農地をも含む大規模な農地転用事案が散見されるなど、農地の減少に歯止めがかかっておりません。

開発圧力が依然として強く大変ではありますが、各農業委員会におかれましては、市町村長への政策提案及び地域での話し合いを通じて、農地を守り活かす取り組みの推進をぜひともお願いいたします。

—農業委員会組織のあるべき姿はいかがでしょうか。

基本法が変わり、私たちは今、時代の大きな変革の中にあります。農業従事者は大幅に減少す

る中、担い手をどのように確保していくのか。地域計画作りを進める上で、多くの地域で抱える差し迫った課題です。

難しい舵取りが必要などからこそ、特別職の公務員である農業委員、推進委員には公正と献身、情熱とリーダーシップが求められる、期待される責任を果たさなければなりません。

大阪府農業会議は今後とも、このことを肝に銘じながら、地域における農業委員会活動の充実・発展のため奮闘努力して参りますので、会員のみなさんのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(聞き手 大阪府農業会議専務理事兼事務局長 北川雅文)

新たな常設審議委員を選任(6月17日時点、敬称略)

6月17日に開催した第53回臨時理事会において、任期満了に伴い、常設審議委員を新たに選任した。選任された委員は以下の通り。

【各地区農委連合会関係】

- ▽吉田 俊之【新任】
- 三島地区(吹田市農委会長)
- ▽小濱 邦臣

三島地区(茨木市農委会長)

▽上西 武司

豊能地区(豊能町農委会長)

▽乾 義夫

豊能地区(能勢町農委会長)

▽東口 正一

泉北地区(高石市農委会長)

▽勝間富士男

泉南地区(泉佐野市農委会長)

▽東

和宏【新任】

泉南地区(泉南市農委会長)

▽仲野 清秀【新任】

南河内地区(千早赤阪村農委会長)

▽垣内 俊夫【新任】

南河内地区(河内長野市農委会長)

▽川口 智司【新任】

中河内地区(柏原市農委会長)

▽西村 覚【新任】

北河内地区(門真市農委会長)

▽中西 久雄【新任】

北河内地区(門真市農委会長)

北河内地区(四條畷市農委会長)

▽北尻 芳孝

堺市地区(堺市農委会長)

【学識経験会員】

▽青木 孝仁 (学識経験)

▽霜野 要規 (学識経験)

▽池宮 理恵【新任】 (学識経験)

【農業関係団体会員関係】

▽(中央会推薦の団体代表者)

(注)

▽石崎 勇(農済組合長理事)

▽内本 直哉

(全農大阪運営委副会長)

▽中井 勝次

(全共連大阪運営委副会長)

▽南部 和人

(府みどり公社理事)

【会長、副会長及び専務理事】

▽中谷 清(農業会議会長)

▽谷口敏信(農業会議副会長)

▽森本 茂(農業会議副会長)

▽北川 雅文

(農業会議専務理事)

(注) J A大阪中央会役員改選

の都合上、次月以降で紹介予定

岸和田市で集落座談会始まる

ワークショップ方式で意見交換

岸和田市農林水産課と農業委員会（谷口敏信会長）が連携し、6月17日の岸和田市神於山土地改良区を皮切りに、7月18日までに9地区で第1回集落座談会を開催。

座談会では、市が地域計画の趣旨・目的、地域の現状を説明。さらに参加者が班に分かれ①地区の農業課題②将来の農地利用像について意見を記入し、分



農業経営上の課題が多く挙げられた（岸和田市）

大東市産業経済室と農業委員会（橋本順昭会長）は6月16日に龍間池田地区で、第1回地域農業座談会を開催した。

座談会では、市が地域計画制度概要の説明と令和5年9月～11月に実施した意向調査の集計分析結果を報告。次いで参加者による話し合いが行われ「地域農業の現状及び課題」について活発な意見が出された。

主な意見として「農機具の更新費用

類・発表するワークショップの方法を説明。参加した20人が5班に分かれて各項目について意見交換し、その内容を発表した。

主な意見は課題として①資材費が高騰したが農産物価格に転嫁できていない②地方はハウス

大東市で地域農業座談会開催

整備に多額の助成があるが大阪は自己資金で利益率が低い③他産地が安価で農産物を出荷するため大阪の農産物価格も低くなり若手が農業を敬遠する。など、地区を超えた課題が出された。

一方、農業振興地域農用地は建物がなく日当たりが良い。農薬散布もしやすいなど利点も挙げられた。

将来の農地利用については①

が高額」「後継者が決まっていない」「高齢で自身での耕作が難しいため、耕作者を紹介してほしい」

「農業用施設、特にポンプの老朽化が心配。稼働から40～50年程度も経過している」などが挙げられた。

その他、農地中間管理機構制度や農作業受委託、鳥獣害対策等も話題にのぼった。

今回の座談会では当該地域の農業



地域の現状をもとに活発に意見交換された（大東市）

規模拡大意向農家や就農希望者と農地を貸したい人とのマッチング②常に目標地図を更新し、誰もがアクセスできることで農地貸借をスムーズにし、これを継続する③ハウス整備などに対する助成などが挙げられた。

市がこれら意見を集約し第2回の座談会で地域計画案を検討。残る8地区でも同様の手法で座談会が開催される。（藤岡）

の将来像等について話し合いを行う予定である。（横尾）

月間農政ファイル

5・24～6・20

- 5・29 食料安全保障の確保を基本理念とする改正食料・農業・農村基本法が、参院本会議で可決・成立した。国による農産物の合理的な価格形成や輸出の促進が組み込まれた。また気候変動を踏まえ、農業の環境負荷低減を新たな基本理念に掲げる。
- 6・12 農水省は令和5年度の認定農業者など担い手への農地集積率が、60・4%であると発表。前年度を0・9ポイント上回る結果となった。令和5年度までに担い手への集積率を8割まで高める政府目標は未達成となる。
- 6・14 外国人技能実習制度に代わる新制度「育成就労」を柱とする出入国管理法などの改正法が参院本会議で可決・成立した。育成就労では技能実習に含まれなかった稲作など、農業の全分野で外国人の労働が可能となる。労働可能期間は3年。分野ごとに受け入れ上限数を設けることとなる。

泉佐野産(もん)の魅力を発信

泉佐野市役所野菜直売所

5月13日、泉佐野市が市役所の正面玄関横で野菜の無人直売所をオープンした。地産地消の促進と泉佐野産(もん)の野菜のPRを目標に、月々金曜日の開庁時間中に営業している。

各曜日によって商品を出品する農家団体が異なるため、曜日ごとにそれぞれ10品目以上の朝

採れ野菜が店頭に並ぶのも魅力の一つ。水ナスは定番だが、パプリカ、オカワカメ、バジルなど、収穫量が少なく大規模な出荷が難しい野菜を中心とした少量多品目で販売されているのも魅力。

直売所のリアルタイム映像を、出品している農家団体の各人が

スマートフォンで閲覧することで在庫状況を確認できるようにし、無人販売を効率化している。水曜日と木曜日に出品している生活改善グループの一員で、

農業者である大和屋君子さんは「まずは一年、この直売所への出品を続けてみたい。季節ごとに旬の泉佐野の野菜を出品することで、泉佐野の野菜の美味しさを知ってもらいたい」と話した。(林)



右から生活改善グループの大和屋君子さん、古谷菊子さん、辻茂子さん。この日の野菜も好評で完売目前だ。

なにわ農業賞受賞者紹介8 家族で美味しい野菜づくりに取り組み

泉佐野市 戸野 武彦さん

「家族の各々が、自分が作りたいと思う野菜を責任を持って栽培しています」と話すのは、平成27年に「なにわ農業賞」を受賞した戸野武彦さん(68)。

品目ごとに栽培担当を決めており、忙しい時には手伝うこともあるが、基本的にはお互い手出し・口出しはしないとのこと。

武彦さん夫婦と息子の貴紀さん(38)夫婦を中心に、借地も含めた160㍏の露地と

40㍏のハウスで、シユンギクやベビーリーフ、トウモロコシ、タマネギ、キャベツ、水ナス、黒枝豆、プチトマト、アスパラガスなど多種類の野菜を栽培している。

武彦さんは大学卒業後サラリーマンをしながら家の農業を手伝っていたが、29歳の時に父親の体調不良に伴い退職し、後継ぎとして専業農家となった。

これを契機にそれまでの水稲作を止めて、露地野菜に加えて新たにハウスの軟弱野菜栽培を

導入して現在の経営基盤を確立した。

この間、長年にわたり地元土地改良区の理事や実行組合長、農協理事等の役職を歴任してきたほか、令和4年からは農業委員として地域農業の振興にも取り組んでいる。

そんな父の元で育った貴紀さんは府立農業大学校に進学し、卒業後はサラリーマンになったものの24歳の時に親元就農。新たな品目として水なす栽培を導入して漬物加工にも取り組んだところ、その美味しさが口コミで広がり大ヒット商品に。今では「泉州TONOファーム」のブランドで、水なすの浅漬をはじめ生産物の多くは直売所や

ネットで販売するほか、市のふるさと納税の返礼品にも採用されているそう。

「今年から、経営全般を息子に任せています」と話す武彦さん。後継ぎである貴紀さんへの信頼と期待の大きさが伝わってきた。

(光崎)



「真面目に農業をしていたら必ず顧客は付く」と話す戸野武彦さん。

天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員
森田 彰朗

第四回

「大雨に備える」

梅雨末期や台風シーズンには、警報が発表されるクラスの大雨

5日先までの早期注意情報(警報級の可能性)

〇〇県南部の早期注意情報(警報級の可能性)

南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪、高潮警報を発表する可能性が高い。また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

〇〇県南部 警報級の可能性	3日		4日				5日	6日	7日	8日
	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24					
大雨		[中]				-	-	[中]	-	
暴風				[高]		-	[中]	[高]	-	
波浪				[高]		-	[中]	[高]	-	
高潮				[高]		-	[中]	[高]	-	

[高]:警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。
[中]:[高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

※警戒レベルとの関係

早期注意情報(警報級の可能性)*...【警戒レベル1】

*大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合。

翌日まで

前日の夕方以降で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

2日先～5日先まで

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

【早期注意情報：気象庁HP】

1種農地の判定等の課題を協議

農地法等業務推進検討会

大阪府農業委員会職員協議会は6月11日、大阪市内・J Aバンク大阪信連事務センターで令和6年度第3回農地法等業務推進検討会を開いた。

〇農地造成・農地改良への対応

営農の効率化のための農地造成・農地改良は、地権者である農業者が



に見舞われま
す。こうした
雨を事前に知
るにはどうす
ればいいのか

しようか。

台風では、かなり早くから、進路等が予報されますが、梅雨前線による大雨や、大気が不安定で積乱雲が発生する場合などは、通常前日にならないと予報を解説してくれません。

早期注意情報とは

こういう時に参考になるのが、気象庁の「早期注意情報(警報

級の可能性)」です。気象庁HPから防災情報↓早期注意情報↓(地図から)大阪府をクリックしてください。この情報は、当日から五日以内に、大阪府に大雨、暴風等の警報が発表される可能性を表したものです(図参照)。

「高」は警報が発表される可能性が高く、「中」は警報級の事象が起る可能性があることを示し、それぞれ濃い赤と薄い赤で示されます。

大雨の準備は何をする？

水稻は基本的に冠水には強い

作物ですが、病害虫などを考えると、水没させないことが最善です。事前に排水路の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備えることが一番です。野菜など畑作物は冠水に弱いものも多いので、排水対策として、畝間を深くし、溝を切つて、水が自然に流れるようにしておくことが大切です。果樹園などでは土砂流亡を防ぐ土のうなどの用意も必要でしょう。ハウスなどの施設では、排水対策に加え、漏電を防ぐための点検をしておくことが安心です。

〇第1種農地の判定における判断要件等の再確認

農業機械が横断することができない土地により囲まれた集団農地がおおむね10畝以上であれば第1種農地となるが、道路の幅員や交差点の位置、橋の有無など、条件がケース毎に異なるため、農地判断要件を再確認することとした。

立地基準を判定する際、農用地区域内農地・甲種農地・第3種農地・第2種農地に該当しない場合に第1種農地に該当する可能性がある。

(田村)

農地保全に家族で話し合いを 羽曳野市農委で相続対策研修

羽曳野市農業委員会（奥野晋也会長）は6月6日、同市役所で研修会を実施。農業委員・推進委員など24人が出席した。

当日は全国農業会議所の原専門相談員が「農家のために必要な相続対策」と題して研修した。研修では、原相談員がこれまで対応してきた実際の相続の事例を紹介。均分相続により地域の中心的な担手の経営農地面積が激減した事例などを通じ、事前に家族で話し合い、家・地域に農地を残していくことの重要性などを周知した。

（沼田）

新会員紹介

岬町 茂野 憲一 会長
学識経験・池宮 理恵 氏

岬町農業委員会は6月3日会長に茂野憲一氏を選出。

同氏は申し出により定款第6条第4項第1号による会員（農業委員会会長）として農業会議の会員に就任。



茂野憲一 会長



池宮理恵 氏

また、全国農業協同組合連合会大阪府本部副本部長の池宮理恵氏が定款第6条第4項第2号による会員（学識経験者）として大阪府農業会議の会員に就任した。

同氏の就任は、5月20日に開催した第52回理事会において承認された。また、6月17日開催の第53回臨時理事会で常設審議委員に選任され、就任となった。



相続税等納税猶予制度のしくみを分かりやすく説明

第99回常設審議委員会 1件の回答保留し現地調査決定

農業会議は6月20日、第99回常設審議委員会を大阪市内・JAバンク大阪信連事務センターで開いた。

第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件（高槻市、能勢町、箕面市、和泉市、貝塚市、泉佐野市、堺市、河南町、富田林市、河内長野市、大阪狭山市（駐車場1件）、八尾市農業委員会会長）16件（1万2826平方メートル）を許可や

むを得ないと認め、回答すること並びに、大阪狭山市の3982平方メートルの露天資材置場については、利用計画等の確認が必要であるため回答を保留し現地調査を実施することを議決した。

【第1号議案】

件数	面積（平方メートル）
第4条	2 1098
第5条	15 1万5710
合計	17 1万6808
（農地区別件数は、3種農地8件、2種農地9件）	

泉北・豊能で 地区連総会を開催

6月中、府内各地で農委地区連の総会が開かれた。農業会議からは、農業情勢と農業委員会組織の課題について報告した。概要は次のとおり。（①開催日、②開催場所、③農業会議事務局出席者）

- 泉北地区農委連合会（会長・北島政夫泉大津市農委会長）
- ①6月14日、②泉大津市役所、
- ③北川専務理事兼事務局長
- 豊能地区農委連合会（会長・辻博美豊中市農委会長）

農業委員会業務担当者会議 6年度業務の重点事項を説明

農業会議は6月4日、大阪市内・JAバンク大阪信連事務センターで農業委員会業務担当者会議を開き、38人が出席した。会議では食料・農業・農村基本法改正に伴って食料・農業・農村基本計画が見直されることや、年度内に地域計画を策定しなければならない情勢を報告し

た。このような農業・農業委員会をめぐる情勢や各地域の状況を踏まえたうえで、市町村長への農地利用最適化に向けた意見提出など、適切な対応をとるよう呼び掛けた。

- ①6月24日、②池田市役所、
- ③北川専務理事兼事務局長

また、個別事業では、農地法業務の適正執行に向けた大阪府・大阪府農業委員会職員協議会との連携や、農業会議設立70周年記念農業委員会大会の開催などについて説明した。

第19回食育推進全国大会出展

大阪府農業会議は、大阪府農業経営者会議と連携し、6月1〜2日にかけて大阪市・大阪南港A TCホールで開催された「ワクワクEXPO with 第19回食育推進全国大会」にブースを出展。都市農業の果た

す役割と農地保全に向けた農業委員会の取り組みについてPRした。大阪での開催は第1回大会以来18年ぶりで、のべ約3万人が来場した。

令和4年策定の「地域の農地を活かし、持続可能な大阪農業



学童農園の展示パネル(吹田市)



農地パトロールの展示パネル(富田林市)



防災協力農地の展示パネル(寝屋川市)

を創る運動」では、都市農業・農地のもつ多様な機能に対する府民理解を促進することとしている。これに基づき、都市農業や、食の根源である農地を守っている大阪府農業委員会組織の取り組みをPRするために、ブースを出展した。

当日は、都市農業が有する多様な機能の解説とともに、「農地パトロール」「学童農園」「防災協力農地」の3つについて、写真及び説明パネルで紹介。

経営者会議は農産物を展示 適正な価格転嫁も啓発

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)は、食育推進全国大会で、組織の取り組みや、農業をめぐる生産資材価格の高騰等

「農地パトロール」では、農業委員会が市長とともに巡回する富田林市の写真を紹介。農地は、食料供給や環境保全において重要な役割を担うことに触れ、農委では、地域の大切な農地が保全されるよう、管内の全農地を確認していることを説明した。

「学童農園」では、農委が市・JA・教育委員会等と協議会を構成し、市内の過半の小学校で農業委員らが体験を指導している吹田市の取組を紹介。農

の課題についてのパネル展示、会員の生産する農産物の展示を行った。

取り組み紹介では、農業者の自主組織として誕生し、会員が知識や技術の向上など自己研鑽に努めていることを説明。

農業をめぐる課題に係るパネルでは、生産資材価格が高騰していることや出荷に際して各流通過程で経費が発生していることに触れ、適切な価格設定が重要であることを訴えた。

会員が生産した農産物の展示では、泉州水なすや大阪ナス、コマツナやシユンギク、花卉類など

作物を育てる体験を通じて、子どもに「食」の大切さを理解させ、正しい食習慣や知識を身に付けることが目的であるとした。

「防災協力農地」では、平成15年に府内で初めて導入した寝屋川市の事例を紹介。日本各地で災害が相次ぐ中で、農地の災害時の避難空間としての役割が見直され、防災機能が多面的機能の一つとして評価されていることを説明した。

(沼田)

計16品目を展示。大阪で多様な農産物が生産されていることをPRし、老若男女さまざまな来場者が足を止めた。

(沼田)



会員の生産した農産物は来場者たちの目を引いた